

編集 後記

帝京大学では専門職大学院公衆衛生学研究科を新規開校して3年目となりました。先日来年度の受験希望者の面接をしましたが、年々希望者の人数やレベルがさらに上がってきているのを実感しております。その志望動機や専門分野は多様でしたが、公衆衛生学には医療・福祉の根幹を支える役割があるわけで、彼女や彼らがしっかりと育つ環境を作ることが大切です。この日本公衆衛生雑誌も、研究成果を披露できる場として、しっかり刊行を続けてまいります。

さて本号は原著1本と研究ノート3本の論文が掲載されています。原著論文は、高齢者の筋肉量の低下であるサルコペニアの問題を扱っています。日本の超高齢社会への対策のため、メタボリックシンドロームだけでなく、運動機能を維持するためのロコモーションシンドローム対策も推進しなくてはなりません。本論文ではサルコペニアが食品摂取や咀嚼と関連することが示唆されていますので、歯科口腔機能を維持する「8020（ハチマル・ニイマル）運動」にもつながる興味深い結果だと感じました。研究ノート3本も、クラミジア感染、食中毒、青年期の発達障害対策と、公衆衛生の重要問題を扱った力作がそろっております。是非、今月号もじっくりとお読み下さい。（中尾睦宏）

次号予告（第60巻・第12号）

原著

乳児を持つ母親の孤独感と社会との関連について
家族や友達とのソーシャルネットワークとソーシャルサポート……………馬場千恵，他

研究ノート

健康日本21（第二次）の目標を考慮した健康寿命の将来予測……………橋本修二，他
都市部公営団地に在住する健康相談未利用者における健康相談の必要性に関する認識とその関連要因の検討……………福井小紀子，他

会員の声

山口県におけるがん検診の医師立会い問題について……………福田吉治

ベストレビュー賞について

日本公衆衛生学会編集委員会は平成24年度よりベストレビュー賞を創設しました。
平成24年度、平成25年度は以下の方々が受賞されました。

平成24年度受賞者

後藤 あや（福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座）

村上 義孝（滋賀医科大学医学部医療統計学部門）

平成25年度受賞者

和泉比佐子（札幌医科大学保健医療学部看護学科）

上原 里程（宇都宮市保健所）